長崎県指定史跡

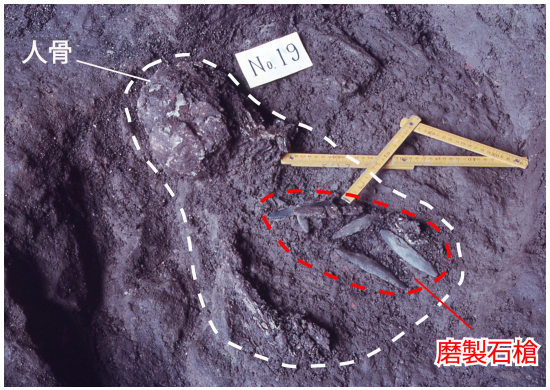
佐世保市岩下洞穴

岩下洞穴は、佐世保市の中央部を流れる相浦川の中流域にあります。石盛岳の南斜面、標高約２００ｍの砂岩露頭にあり、南向きに開口しています。眺めが良く、遺跡近くには湧き水があります。さらに洞穴内部の面積が約１０５㎡と広いなど、立地条件に恵まれています。

昭和３８年（１９６３）に発見され、予備調査を含めて４回の発掘調査が行われました。その結果、縄文時代草創期～古墳時代にかけての遺物が出土しています。特に、約８千年前の縄文時代早期の内容が、充実しています。

◆**問合せ先**　佐世保市教育委員会　社会教育課
TEL (0956)24-1111

第二次発掘調査中の岩下洞穴（１９６５）



磨製石槍５本を副葬した１９号人骨

縄文時代早期の遺物で最も多かったものは、石鏃等の狩猟具でした。また多くの土器や、持ち運びができない石皿等も発見されたことから、長い期間にわたって人々が定住した遺跡と考えられます。

岩下洞穴の縄文人たちは、ここを拠点として広い行動範囲を持っており、各地に狩猟や採集の生活をするためのキャンプ場所もあったと考えられます。

洞穴からは、埋葬人骨も２９体出土しました。これは、この時期の人骨としては日本一の出土量です。屈葬形式の中には、石を抱いたものや磨製石槍５本を副葬したものもありました。これらの人骨は、西北九州の縄文早期人の形質を知るうえで、大きな成果をもたらしました。

さらに、炉跡などが集中する場所と埋葬の場が分離しており、生者の場と死者の場が区別されていたと考えられています。また対岸にある泉福寺洞窟（瀬戸越１丁目：国史跡）との比較によって、縄文時代草創期の終わり頃に、泉福寺洞窟から岩下洞穴に人々の拠点が移動した可能性が高いことがわかるなど、洞穴遺跡を研究する上で極めて重要な遺跡といえます。

発掘調査に携わったメンバー
（第二次調査：１９６５）